

Do a Front AIR 2025

雪舟からの手紙

招聘作家

グラフィス・フル・ハラ
Grafis Huru Hara / インドネシア

アミー・ザハルワーン
Amy Zahrawaan

アディ・ディゲル
Adi Dhigel

アニタ・ボニット
Anita Bonit

イアン・スキルヴィン
Ian Skirvin / オランダ [Van Gogh AiR交換プログラム]

井口 美尚
Minao Iguchi / 日本

2025
11/1(土) » 30(日)

会場 | 洞春寺(山口県山口市水の上町5-27)

シンポジウム「山口とアーティスト・イン・レジデンス」

オープンスタジオ

スタジオツアー

朝ごはん会

Van Gogh AiR報告会とワークショップ

トーク

交流会

今年も開催!!

世界の朝ごはん会



[主催] Do a Front [助成] 令和7年度 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス型地域協働支援事業、オランダ王国大使館、公益財団法人小笠原敏晶記念財団、Dana Indonesian
[協力] 洞春寺、水の上窯、株式会社インターン、Art Center Ongoing、上野恵子、荏開津通彦、白川美幸、末永史尚、末廣絵里、末廣正義、寺田幸子、福武典子、
ピリカタント、山口大学人文学部藤川哲研究室、山口県立大学国際文化学部蔵田典子研究室、山口県立大学国際文化学部芹澤隆道研究室、N3Art Lab
[後援] 山口市、山口現代芸術研究所(YICA) [チラシデザイン] 寺田幸子

DANA INDONESIA



INTRODUCTION

雪

舟が滞在した雲谷庵をはじめ、ギャラリーシマダ、木町ハウス、秋吉台国際芸術村等さまざまなアーティスト・イン・レジデンスが生まれた豊かな文化土壌のある山口で、Do a Front AIR2025を開催します。国内外のアーティスト3組が、雪舟のいた時代から続く伝統文化や地域資源、地域の人々との交流をしながら、リサーチや創作活動を行います。今年度は、地域のコミュニティ拠点である洞春寺に滞在します。滞在期間中は、洞春寺で、毎週日曜日に朝ごはん会を開催します。また、オープンスタジオやワークショップ、トークイベント等を実施します。ぜひ、アーティストの新たな視点をいっしょに楽しみましょう。

ARTIST PROFILES



グラフィス・フル・ハラ(GHH)

2012年に設立されたジャカルタ拠点の版画コレクティブ。8名のメンバーによるスタジオは「アートラボラトリー」として機能し、版画の実験と教育を展開しながら、展覧会やワークショップ、コラボレーションを通じて日常生活へと活動を広げている。スタジオレンタルや受注制作、出版活動、版画用具の販売なども行い、ジャカルタにおいてアーティストが制作と共有を行うための重要なプラットフォームとなっている。



アミー・ザハルワーン /インドネシア

1990年生まれ、別名モニエットバリ。ジャカルタを拠点に活動するビジュアルアーティスト/アートオーガナイザー。ジャカルタ州立大学で美術教育を専攻したのち、ジャカルタ芸術大学(IKJ)にて修士号を取得。グラフィス・フル・ハラ(Grafis Huru Hara, GHH)のゼネラルマネージャーを務めるとともに、グドスグル・エコシステム(Gudskul Ekosistem)*ではレジデンス・マネージャーとして活動。ドローイング、版画、イラストレーション、壁画を横断する彼の制作は、イソップ寓話から着想を得ており、自身を「人間の日常に仕掛けられた罠にかかったサル」と捉えるユーモラスな視点が特徴である。その発想は作品の中で繰り返し現れ、猿のキャラクターが彼の主要なビジュアル言語として用いられている。また、アート活動以外にも、サッカー選手としてプレーし、夜には駆け出しの都市型農家として畑を耕す一面も持っている。



アディ・ディゲル /インドネシア

1990年生まれ。ジャカルタ州立大学で美術教育を専攻。現在はグラフィス・フル・ハラ(GHH)のスタジオチーフを務め、グドスグルのアーティストティックチームにも参加している。多様な版画技法を用いた制作を中心に、日常で自身が経験し目にする社会問題をテーマとして取り上げる。版画作品に加え、壁画やイラストレーションの制作も行い、表現の幅を広げている。



アニタ・ボニット /インドネシア

1990年生、通称ボニット。ジャカルタを拠点に活動する版画家であり、母でもある。版画コレクティブ「グラフィス・フル・ハラ(GHH)」のメンバーであり、同時に「グドスグル・エコシステム」にも参加している。版画、コラージュ、ドローイングを横断し、女性や自己表象をテーマに作品を制作。多様なメディアを用いた実験的な探求を行っている。グドスグルでは、コレクティブ・スタディ・プログラムに関わり、ワークショップやスタジオ活動のコーディネートを担当。制作実践は版画技術の発展にとどまらず、アートコレクティブやクリエイティブ産業における版画の役割にも注目している。さらに2013年からはアートマネジメントにも携わり、現在はグドスグルのプロジェクトマネージャーとして展覧会や音楽フェスティバルの企画運営を行っている。アート活動に加え、食文化への関心も深く、フード・イニシアティブ SELARASA を通じて「フードラボ」プログラムを展開。リサーチ、ガーデニング、ワークショップ、クッキング・パフォーマンス、食の生産をコレクティブな営みとして実践している。

※グドスグル・エコシステム

Gudskul: Contemporary Art Collective and Ecosystem Studies

2018年にruangrupa、Serrum、Grafis Huru Hara (GHH) によってジャカルタで設立された公共の学びの場。「ルンペン(米蔵)」の思想に基づき、資金やプログラム、機材、知識といった資源をコレクティブ間で共有する仕組みを持つ。アーティスト、キュレーター、デザイナー、ミュージシャンなど多様な人々が集まり、インスタレーションやパフォーマンス、メディアアート、教育など幅広い表現を展開しながら、社会・文化・政治・環境的課題に取り組んでいる。





イアン・スキルウィン ／オランダ

イアン・スキルウィン(1991年生まれ)の創作活動は、素材の発見と組み立てに焦点を当てており、風化、朽ちゆく美しさ、隠されたものの顕現が中心的な役割を果たす。これらの要素は、訪問者がパフォーマーの役割を担う実物大のインスタレーションにおいて、彫刻や装飾として融合する。これにより即興的な設定が生まれ、偶然性が重要な役割を担う。

彼の活動領域は3Dプリント、陶芸、彫刻的アッサンブラージュ、絵画、音響など多様なメディアに及ぶ。これらの要素を軸に構築される世界は、舞台美術的要素の助けを借りて「現実感の停止」を喚起し、グロテスクと尽きせぬ好奇心が共存する現実を提示する。

作品が音響構成を含む完全な舞台装置として現れることもあれば、即興パフォーマンスや彫刻のみで構成されることもある。スキルウィンにとって最も重要なのは、体験の触媒となる作品を創出することであり、その体験は鑑賞者の心の中で起こるのである。



井口 美尚 ／日本

1998年 東京都生まれ
2024年 東京造形大学造形学部美術科卒業
2025年 東京芸術大学大学院メディア映像専攻在学
美術作家、パフォーマー。規範に触れたときに発生する身体の「輪郭」を捉えようと試みる。パフォーマンス、映像、彫刻など異なるメディアを横断し、認識した「位相性」をしばしば利用する。衣服、タイエット、ダンス、教育、家族、儀式、料理、陰謀論、様々なことに興味あり。

EVENT INFORMATION



【オープンスタジオ】 予約不要 参加無料

Do a Front AIRは、滞在期間は30日間と短く、3カ国からアーティストが同時期に交流しながら、リサーチや制作を行います。今年度は、地域に開かれたコミュニティの洞春寺に滞在し、新しい視点や様々な文化交流や地域での経験を彼らのオープンスタジオを通して公開します。みなさまのご来場をお待ちしております。

INFORMATION

日時 | 11/22(土)・23(日)・24(月) 11時～16時

会場 | 洞春寺(山口県山口市水の上町5-27)

【スタジオツアー】 予約不要 参加無料

モデレーターを迎え、3組のアーティストのお話を聞きながら、スタジオをまわります。

INFORMATION

日時 | 11/24(月) 15時～16時30分

会場 | 洞春寺

モデレーター/通訳 | 池田哲

シンポジウム 予約不要 参加無料 山口とアーティスト・イン・レジデンス

山口情報芸術センターのキュレーター、レオナルド・バルトロメウスをモデレーターに迎え、招聘アーティスト3組と山口での30日間の滞在制作をふりかえります。地方都市でのAIRの可能性を招聘作家や参加者と話したいと考えます。

シンポジウム終了後、会場で出演者との交流会を行います。料理担当はピリカダントさんです。交流会は、有料・要予約。詳細はインスタグラムをご覧ください。

INFORMATION

日時 | 11/25(火) 18時～20時(交流会20時30分～22時)

会場 | 洞春寺

ゲスト | アミー・ザハルワーン、アディ・ディゲル、アニタ・ボニット(GHH)

イアン・スキルウィン(オランダ)

井口 美尚(日本)

モデレーター | レオナルド・バルトロメウス

通訳 | 池田 哲 助成 | 公益財団法人小笠原敏晶記念財団



レオナルド・バルトロメウス ／山口情報芸術センター[YCAM] キュレーター

ジャカルタ芸術大学卒業。2012年にruangrupa(後にGudskul Ekosistem)に参加。近年はオースン・エデュケーションとコラボレーション・プロジェクトに焦点を当てた活動を展開し、海外でのインディペンデント・リサーチやプロジェクトも行っている。



池田 哲 Satoshi Ikeda

1975年生、東京出身。2003年Middlesex大学Sonic Arts修士課程修了。英語と実験音楽への興味から、20代より渡英。作曲をダuncan・ドゥルースに師事。微分音や特殊奏法を取り入れた調性と音響が拡張された作品を制作する一方で、近年はポスト・ケージ的な試みとして、言語と音響が入り混じる即興的なパフォーマンスを行っている。卒業後は自身のクリエイティブな活動を継続する傍ら、フリーランスの通訳/翻訳、そしてコーディネーターとして美術やビジネスなどの様々な業界に携わっている。2018年より女子美術大学非常勤講師を務める。

トーク with Van Gogh AiR

ウィンセント・ファン・ゴッホ・ハウスは、ゴッホの生誕地にある「記憶と体験の館」です。隣接の別館や森の中の施設では、アーティスト・イン・レジデンス(AiR)による滞在制作を行っています。2023年より当団体とは交換プログラムを実施しています。この度、ディレクターのロン・ディルフェン氏とキュレーターのエウア・ヘーネ氏を迎えトークイベントを行います。

トーク終了後、会場で出演者との交流会を行います。料理担当は末廣英里さんです。交流会は、有料・要予約。詳細はインスタグラムをご覧ください。

INFORMATION

日時 | 11/1(土) 16時～17時(交流会 18時～20時)

会場 | 洞春寺(山口県山口市水の上町5-27)

ゲスト | Van Gogh AiR ロン・ディルフェン、エウア・ヘーネ

モデレーター | 藤川 哲

通訳 | 芹澤 隆道



ロン・ディルフェン
/Van Gogh AiR ディレクター

オランダ・エッテン＝ルール生まれ。アーティストであり、美術史家、そして著述家である。ジャーナリズム、美術史、絵画を学んだのち、フレダ美術館で10年間勤務。その後、ウィンセント・ファン・ゴッホの生誕地ザントルトにある美術館兼アートセンター「ウィンセント・ファン・ゴッホ・ハウス」のディレクター兼キュレーターに就任した。また、同館のアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「Van Gogh AiR」のキュレーターも務めている。



エウア・ヘーネ
/Van Gogh AiR キュレーター

オランダ・スデルト生まれ。アムステルダム大学で美術史とミュージアム学を専攻後、2008年よりウィンセント・ファン・ゴッホ・ハウスのマネージャー、2011年から同館のアーティスト・イン・レジデンス「Van Gogh AiR」キュレーター。2024年にはステデリック美術館フレダのゲストキュレーターとして活動。国際交流プロジェクト「Van Gogh & Japan」「Van Gogh & Antwerp」などを企画し、若手支援「TalentHub Jump」でもコーチを務める。



芹澤 隆道 Takamichi Serizawa
/山口県立大学国際文化学部国際文化学科講師

2013年11月シンガポール国立大学人文社会科学部東南アジア研究科博士課程(PhD(東南アジア研究))修了後、日本学術振興会特別研究員PD、京都大学東南アジア地域研究研究所機関研究員を経て2023年4月から山口県立大学国際文化学部講師。



藤川 哲 Satoshi Fujikawa
/山口大学人文学部教授

1968年長崎県生まれ。東京大学大学院人文科学部研究科修了。群馬県立近代美術館主任学芸員を経て、2013年より現職。美術史を担当。主な研究分野は芸術祭や国際美術展。

アーティスト三原聡一郎によるVan Gogh AiR報告会とワークショップ

Do a Front AiR2025の交換プログラムの派遣アーティストとして、オランダ・スデルトのVan Gogh AiRに1ヶ月間滞在した三原聡一郎氏による滞在報告会とワークショップを行います。ワークショップは、三原氏がスデルト滞在期間中に制作したプロセスの実体験になります。詳細はインスタグラムをご覧ください。

INFORMATION

● Van Gogh AiR報告会

● ワークショップ 要予約

日時 | 11/22(土) 14時～15時

日時 | 11/23(日) 13時～15時

会場 | 洞春寺 予約不要 参加無料

参加料 | 1,000円 会場 | 洞春寺



三原 聡一郎 Soichiro Mihara

世界に対して開かれたシステムを提示し、音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、土、水そして電子など、物質や現象の「芸術」への読みかえを試みている。2011年より、テクノロジーと社会の関係性を考察するための協働プロジェクトを国内外で展開中。2022年より「3月11日に波に乗りよう」共同主催。近年、これまでの活動を「空気の芸術」として、振動、粒子、呼吸というカテゴリーに基づいたアーカイブ実験をレシピの形式に基づいて進めている。<http://mhrr.jp/>

朝ごはん会 予約不要 数量限定

レジデンス期間中、毎週日曜日に朝ごはん会を実施します。滞在アーティストと一緒に「同じ釜の飯を食べる」時間を過ごしましょう。

INFORMATION

日時 | 11/2(日) 10時～11時 日本の朝ごはん(井口 美尚/末廣 英里)

11/9(日) 10時～11時 インドネシアの朝ごはん(Grafis Huru Hara)

11/16(日) 10時～11時 オランダの朝ごはん(Ian Skirvin/上野恵子)

11/23(日) 10時～11時 世界の朝ごはん(ピリカダント 西野 優)

会場 | 洞春寺

会費 | 各回 1,000円/人



末廣 英里 Eri Suehira

1993年愛知県名古屋市生まれ。国内外旅を愛し、2017年興味を持った山口県に移住する。2023年世界一周旅行を達成する。4年半飲食店勤務経験があり、料理が趣味。



ピリカダント / 西野 優 Yu Nishino

北海道出身。レコード会社や出版社勤務を経て、フックカフェを運営。閉店後は、ケータリングやレシピ監修など料理を軸として活動。2020年、東京から山口移住。下関の海町に暮らし、昨秋より福岡・飯塚在住。現在は寺院に勤めながら、各地で料理し、ジャムやシロップなど製作。風土や季節に感謝して楽しく料理する、食の表現を実験し続けている。

